

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

|       |                       |      |      |        |            |         |   |            |   |    |     |           |  |
|-------|-----------------------|------|------|--------|------------|---------|---|------------|---|----|-----|-----------|--|
| 事務事業名 | 環境マネジメントシステム普及事業      |      |      |        | 財務会計上の位置付け | 会計      | 款 | 項          | 目 | 細目 | 細々目 | 19予算額(千円) |  |
| 部等名   | 水道環境部                 | 課等名  | 環境課  |        | 包含する細々目    | 1       | 4 | 1          | 5 | 16 | 1   |           |  |
| 政策    | 5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり |      |      |        |            |         |   |            |   |    |     |           |  |
| 施策    | 55環境改善活動の展開           |      |      |        |            |         |   |            |   |    |     |           |  |
| 実施区分  | 継続                    | 会計   | 一般会計 | 環境調整会議 | 不要         | 関連計画条例等 |   | 21いいだ環境プラン |   |    |     |           |  |
|       |                       | 事業期間 | 9    | 年度～    | 年度         |         |   |            |   |    |     |           |  |

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

|       |   |  |                |            |      |                  |          |
|-------|---|--|----------------|------------|------|------------------|----------|
| 目的の記述 | 対象(人や物、自然資源など)  | 対象の大きさを表す対象指標名と単位  | 対象指標の数値        |            |      |                  |          |
|       | 飯伊地区の事業所  | 飯伊地区の事業所の数   | 現状又は19年度見込     | 23年度又は終了年度 |      | 23年度以前に終了した年度とする |          |
|       |   |  | 6476           | 6476       |      |                  |          |
|       |   |  | 現状又は19年度見込     | 23年度又は終了年度 |      |                  |          |
| 目的の記述 | 意図(成果は何か、対象をどうかえるか)   | 成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位                                     | 成果指標の数値(実績・目標) |            |      |                  |          |
|       | 環境マネジメントシステム(ISO14001、南信州いいむす21、エコアクション21等)の認証、自己宣言を行う事業所の数を増やす | ISO14001、南信州いいむす21、エコアクション21の認証や登録を受けた事業所及び自己宣言を行った事業所数。 | 18目標           | 120        | 最終目標 | 210              | 22       |
|       |   |  | 18実績           | 130        | 19目標 | 150              | ↑        |
|       |   |  | 23目標           |            | 23実績 |                  | 最終目標達成年度 |
|       |   |  | 18目標           |            | 最終目標 |                  |          |
|       |   |  | 18実績           |            | 19目標 |                  | ↑        |
|       |   |  | 23目標           |            | 23実績 |                  | 最終目標達成年度 |

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

|       |  |  |   |  |
|-------|--|--|---|--|
| 手段の記述 | 事業の全体概要(補足説明)  | 具体的活動内容(やり方、手順、詳細)   | 活動量を表す名称・単位   | 活動量の値  |
|       | 1 環境改善活動を推進させるためにISO14001、エコアクション21等の認証取得を目指す事業所に対して、相談・支援を行います。<br>2 ISO14001の認証取得は小規模事業所では困難な場合が多いので、この地域独自の認証システムである「南信州いいむす21」を普及させます。<br>取り組み宣言<br>審査(地域ぐるみ環境ISO研究会による)<br>認証を受ける(広域連合長による)<br>3 ISO14001自己宣言を確認支援する「南信州宣言」に取り組む事業所を広げます。<br>4 自治体が率先垂範して環境改善活動に取り組むために、ISO14001をはじめとした庁内環境マネジメントシステム(EMS)を推進します。 | 「南信州いいむす21」の普及推進<br>「地域ぐるみ環境ISO研究会」の組織強化<br>「南信州いいむす21」のレベルアップ<br>「ISO14001自己宣言:南信州宣言」のシステム構築<br>「市役所ISO14001」相互内部監査による客観性、透明性の担保<br>「市役所ISO14001」トップインタビューの実施による職員の自覚促進<br>「市役所ISO14001」マニュアルの継続的改善 | 南信州いいむす21支援審査した事業所数<br>ぐるみ通信の発行数<br>構築したクラス数<br>南信州宣言の事業所数<br>市役所相互内部監査参加者延べ数<br>トップインタビュー参加者数<br>マニュアル改正回数 | 35事業所<br>55号1050カ所<br>3クラス<br>1事業所<br>102人<br>150人<br>2回 |
|       |  | 「南信州いいむす21」の普及推進<br>「地域ぐるみ環境ISO研究会」の組織強化<br>「ISO14001自己宣言:南信州宣言」のシステム構築<br>「市役所ISO14001」相互内部監査による客観性、透明性の担保<br>「市役所ISO14001」トップインタビューの実施による職員の自覚促進<br>「市役所ISO14001」マニュアルの継続的改善                       | 南信州いいむす21支援審査した事業所数<br>ぐるみ通信の発行数<br>南信州宣言の事業所数<br>市役所相互内部監査参加者延べ数<br>トップインタビュー参加者数<br>マニュアル改正回数             | 30事業所<br>52号1150カ所<br>2事業所<br>100人<br>150人<br>2回         |

|            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| <金額の単位:千円> |            | 18決算額(見込)  | 19予算額(当初)  |
| 事業費        | 特定財源       |            |            |
|            | 国庫支出金      |            |            |
|            | 県支出金       |            |            |
|            | 起債         |            |            |
|            | その他        |            |            |
|            | 一般財源       | 557        | 546        |
|            | 事業費計(A)    | 557        | 546        |
| 人件費        | 正規職員所要時間   | 18年度 4,000 | 19年度 4,000 |
|            | 臨時職員等所要時間  |            |            |
|            | 人件費計(B)    | 14,304     | 14,304     |
|            | トータルコストA+B | 14,861     | 14,850     |

|             |  |
|-------------|--|
| 特定財源内訳や補足事項 |  |
|-------------|--|

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

|       |                            |  |           |      |      |    |
|-------|----------------------------|--|-----------|------|------|----|
| 目的の記述 | 結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的      | 上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位   | 上位成果指標の数値 |      |      |    |
|       | 環境改善活動を継続的に取り組む市民・事業者が増える。 | 環境に配慮した生活を積極的に進めている市民の割合(「21いいだ環境プラン進行管理」の住民アンケート、H18環境レポートより) | 現状値       | 45   | 19実績 |    |
|       |                            |  | 20実績      |      | 21実績 |    |
|       |                            |  | 22実績      |      | 23目標 | 64 |
|       |                            | 環境マネジメントシステムに取り組んでいる事業者数                                       | 現状値       | 130  | 19実績 |    |
|       |                            |  | 20実績      |      | 21実績 |    |
|       |                            | 22実績   |           | 23目標 | 210  |    |

| この事業を開始したきっかけ   | 事業を取り巻く状況の変化  | 事業に対する市民や議会の意見   |
|---|---|--|
| 1972年に環境問題を国際的に調整する国連環境会議(UNEP)が発足。以来地球温暖化についての科学的な研究や情報を整理するIPCC(政府間機構)の誕生、環境問題の解決に向けた道筋を国際的に共有した1992年の地球サミットの開催や、温室効果ガスの削減目標を約束した1997年の京都議定書の議決などの取り組みが進められる。<br>環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001はこれらの動きを受けて、1996年に発行される。1997年南信州の地に、地域ぐるみ環境ISO研究会が設立。事業所の活動を点と捉え、地域や家族に広げる面に広がることを目指し、足元の地域から環境問題の解決を図ることを目指した。 | 地域ぐるみの環境改善活動を進めるために、地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」を2001年10月に構築。事業所の取り組みのレベルにあわせてステップアップを可能とするために、2006年4月初級中級上級の3つのステップを設けたシステムに改正。あわせてISO14001の自己宣言を地域ぐるみ環境ISO研究会と南信州広域連合が確認する「ISO 14001南信州宣言」というシステムを構築した。<br>一方、IPCCの報告では地球環境問題は、予測を上回る速度で深刻化している。<br>足元からの環境改善活動の一層の広がりが求められているが、この活動は事業者のボランティアな活動に | 地域ぐるみ環境ISO研究会が呼びかけ、2月16日、京都議定書発効2周年を記念して実施した「ノーマイカー通勤、22時ライトダウン&テレビのスイッチOFF」参加者からの代表的な意見は以下の通り。<br>「家族で環境について話し合う大変良い機会であった」「ライトダウンは夜型生活を見直す機会でもあり、健康や子育てを考えるうえでも良い機会であった」「今回をきっかけに継続的な取り組みとしていきたい」「会社として一斉に早期退社を試みた」<br>飯田工業高校や下伊那農業高校からは、生徒たちの自主的な取り組みとつながりたいという、教育的な視点での相談もいただいている。 |

## 【See】18年度の振り返り

| 目的<br>妥当性<br>評価                    | (評価) 結びつく (その理由)   | 有効性<br>評価 | (評価) 余地がある (その理由)  |   |  |
|------------------------------------|--|-----------|--|---|--|
|                                    | この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？  |           | より多くの事業所が南信州いいむす21に取り組むことで、環境マネジメントシステムに取り組む事業所が増加し、事業所従業員が所属する地域や家庭に環境に配慮した生活を積極的に進める市民の増加に結びつく。          | 成果をさらに向上させる余地はありますか？  | 環境マネジメントシステムに取り組んでいない事業所の数は、取り組んでいる事業所より圧倒的に多く、成果を向上させる余地は大きい。   |
|                                    | 対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？  |           | (評価) 必要性がない (その理由)<br>事業所は、行政区を越えて活動している。環境改善活動も、行政区を越えて広く取り組まれることに意義がある。現在のように南信州(飯田下伊那)全域を対象とすることが妥当である。 | 廃止・休止した場合の影響はありますか？   | (評価) 影響あり (その理由)<br>南信州いいむす21などの環境マネジメントシステムは、常に継続的な改善が進められていることが必要であり、そのための支援や審査を行う地域ぐるみ環境ISO研究会のような第三者の組織があって成立する。 |
|                                    | 意図の見直しの必要性はありますか？  |           | (評価) 必要性がない (その理由)<br>事業所が環境マネジメントシステムに取り組むことで、継続的に環境改善を進める意識や行動を持つ市民の増加に結びつくことが期待される。                     | 他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？   | (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)<br>南信州いいむす21は、取り組みに係る費用や手間を簡素化した地域独自の環境マネジメントシステムであり、他に変わるシステムを構築支援を行う組織もしくもこの地域にはない。         |
| 市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？ | (評価) 必要ある (その理由)<br>行政が事業所と連携した地域ぐるみの活動を進めることは、例えば経済活性化プログラムの目標達成にも結びつく。また異業種共同の活動が、異業種同士良好な関係性を保って進行するためには、市が関与する意義や効果が多大である。 | 効率性<br>評価 | 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？  | (評価) 可能 (その理由)<br>事業所で環境マネジメントシステムに関わりタイアした人材などをこの取り組みの構成員とすることができれば、社会的な志をもったボランティアな活動として、人件費等の節減は可能である。                   |  |
|                                    |  | 公平性<br>評価 | 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？  | (評価) 妥当である (受益者とその理由)<br>受益者は南信州いいむす21に取り組む事業者であり、審査手数料として一定の負担は受けているが、負担金額増額を講じる余地はある。ただし、負担が増えることで、取り組みを行う事業所が減少するおそれがある。 |  |

## 【Plan】改革改善

| 今後の事業の方向性   | 何を、いつまでにどうするのかの改革改善案  |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 終了<br><input type="checkbox"/> 廃止<br><input type="checkbox"/> 休止<br><input type="checkbox"/> 目的見直し<br><input type="checkbox"/> 別事業に統合<br><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善<br><input type="checkbox"/> 現状維持 | 南信州いいむす21を取り組みやすいしくみとする。H19年度中に、わかりやすいガイドや、必要な文書・記録類の様式を作成する。<br>南信州いいむす21の構築支援を行う地域ぐるみ環境ISO研究会に属する個々の事業所の取り組みのレベルアップのために、H19年度は、年3回以上改善研究会を実施する。<br>南信州いいむす21、ISO14001南信州宣言の構築支援や審査を行う力量を持った実務者の確保。特に環境マネジメントシステム審査員有資格者の拡大。 |
| 上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法   | 審査料収入と、審査員を務める地域ぐるみ環境ISO研究会メンバーの負担のバランスについて検討が必要。研究会の組織強化や、参加事業所トップの課題意識の共有化も課題。課題解決に向けては研究会事務局や課題別のPJを組織しながら方向付けや指針作りを進めることが必要。  |

### 【補足事項環境側面】

|                            |   |                 |                  |
|----------------------------|---|-----------------|------------------|
| (1) 環境影響評価の必要性判断           | 必要性がある  | (2) 必要性な場合の実施事由 | 2- 内部監査で指摘のあったとき |
| (3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？ | 地球環境問題、特に地球温暖化の深刻化の度合いを常に意識しながら事業に取り組んでいる。環境マネジメントシステムとしての南信州いいむす21や、研究会の活動内容自体も継続的な改善を進めている。 |                 |                  |

### 【指摘事項】

|                  |  |
|------------------|--|
| 施策マネジメント会議       |  |
| 施策評価会議           |  |
| 第5次基本構想基本計画推進委員会 |  |